

* 竹田市感染症情報(竹田市独自集計) *



令和7年第24週 (6月9日～6月15日)

インフルエンザが増加しています

今週の竹田市調査医療機関からの報告数は14名と、先週の7名と比較して倍増しました。
先週までは15～19歳からの報告だけでしたが、今週はほかの年代からの報告がみられ、すべてインフルエンザB型となっています。
大分県全体では、0.26と先週の0.22から微増しました。

インフルエンザだけでなく、新型コロナウイルス感染症の増加もみられました。基本的な感染対策は同じですので、手洗いやうがいを行い、咳エチケットに気をつけましょう。エアコン使用時は、閉め切った状態が続かないように定期的な換気を行うことも大切です。



大分県内で伝染性紅斑が流行しています

感染症発生動向調査事業に基づく、県内の伝染性紅斑の患者報告数が第23週(6/2～6/8)に1定点医療機関あたり2.36人となり、約6年ぶりに警報基準である2.0人を超えました。第24週は、定点あたり2.31人とやや減少し、大分市や西部保健所管内から多く報告されています。豊肥保健所管内では、第24週に定点あたり1.00人の報告がありました。

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19による感染が原因で発症します。小児に多く、両頬に蝶形の紅斑が出現することから、「リンゴ病」ともよばれます。感染しても、典型的な症状を示さない症例や症状がない症例(不顕性感染)も多くみられます。

感染から約10～20日の潜伏期間のあと、微熱やかぜの症状などがみられ、頬に境界鮮明な紅い発疹が現れます。微熱やかぜ症状がみられる時期はウイルスの排泄量が多く、発疹が現れた時にはほとんどウイルスを排出しておらず、感染力はほぼありません。

これまで伝染性紅斑に感染したことがない女性が妊娠中に感染すると、胎児水腫などの重篤な状態や流産のリスクとなる可能性があるため、注意が必要です。飛沫感染や接触感染で広がるため、手洗いやうがいの基本的な感染予防と咳エチケットを心がけましょう。

(第24週)

(調査医療機関8か所の総患者数：ただし1医療機関は休診中)

疾患名 年齢	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱(プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻疹(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)
	A型	B型	不明																
0歳																			
1～3歳																			
4～6歳		1						2			1								
7～9歳																			
10～14歳		2						2											
15～19歳		8		1				1											
20歳以上		3		10				1											
今週		14		11				6			1								
		14																	
70歳以上(再掲)				6															
先週		7		1															

